

令和3年度第2回くすのき広域連合四條畷市域生活支援サービス協議体
議事録(要旨)

日時：令和4年2月28日(月)

10時30分～12時

場所：オンライン開催(ZOOM)

出席者

〈協議体〉：小林委員、辰巳委員、鈴木委員、小嶋委員、河田委員、
大野原委員、補永委員、吉川委員、

〈生活支援コーディネーター〉：(第1層)橋本、(第2層)高垣、吉井、森脇

〈事務局職員〉：阪本(途中退席)北村

欠席委員：西村委員、杉本委員

【事務局】出席者数について報告、協議体成立。配布資料確認

議題1. 生活支援コーディネーター活動報告及び進捗について

資料1・資料2に基づき、第1層生活支援コーディネーター橋本氏より説明

【委員】 コロナが終息しないので集まることが難しいが、高齢者が気軽に通える場づくりやICT活用による高齢者向けスマホ教室などを実施。課題として地域貢献やボランティア活動に興味ある人は多いがリーダー的な役割が苦手。また、ICTへの使い方の不安で抵抗があるが習得していくと反応が良かった。コロナ禍で対面が厳しい中、どのようにつながりをとっておられますか。

【委員】 ライングループを作り情報共有している。サロンなどの書類はポスティングしている。

【委員】 戎公園地区は独自連絡網あり。北谷地区はポスティング、さつきは3名なので電話連絡

【委員】 高齢者が無理のない程度にICTを進めていきます。

続いて第2層 第1圏域 説明をお願いします。

【委員】 以前から関わっていた清滝団地地区福祉委員会活動(交流ひろば)では包括企画で2か月に一回 日曜に「出張相談会」を実施し、JAGESの地区診断のデータをもとに検証

30分以上歩いている人は健康意識が高いデータがあり、移動、外出困難であろうと思って、それを交流ひろばで実践していこうと思ったが、意外にも健康意識が高く実践されていた。

次年度は他の地区での住民の声を聞く機会を継続し、具体的な課題整理をして啓発活動をしていく。

身近に集える通いの場として「なわて元気プロジェクト」を実際に活動できる啓発をしていきたい。

また、オンラインで認知症の人を介護している人同士のつながりの人材の発掘していきたい。(3月30日テスト企画で実施予定)
地域での身近な課題があれば各委員に聞きたい

【委員】 中野本町、西中野地区では、あまり困っていないがコロナ禍で外出できないので認知症の方が増えてきているように思う。顔だけでも合わせられる場の確保をして工夫をしている(3月8日予定)

【委員】 施設従事者なので、地域があまり見えないが、入居者が外出したがつているので何かいい方法はないかと考えている。
市のコミュニティバスなどで市内の施設を巡回してもらえたらいいのになど思っている。

【委員】 では第2圏域 お願いします。

【委員】 住民からの通いの場の立ち上げ支援をしてきたが、コロナ禍なので外部でできるポールウォークを通して地域の見守り活動などのきっかけづくりをしてきた。また ICT 活動としてそれを可視化するため動画を配信した。(モチベーションUPになっている)
ポールウォークを通してのイベントがボランティア活動には介護予防の観点には有効である。

課題として参加者は介護予防への意識が高い人が多いが、人への関心は薄いので、地域に対して興味・関心を持ってもらうにはどうしたらいいのかをお聞きしたい。

【委員】 周知方法は担い手の年齢層に対し、自治会などへは沢山の書類が届くのでそのあたりのアプローチをしてはどうか。

【委員】 ポールウォークの会はどんな組織か

【委員】 毎週月曜 昼間 深北緑地公園を拠点に活動している自主組織
この組織に対し四條畷市域を歩いてもらって子どもや高齢者の見守り活動のきっかけづくりになるのではと思っている。

【委員】 中野本町地区では 100 万歩運動として 50 歳以上を対象に活動しているが団体活動となると難しいのでは。個人的に活動するとしやすいと思う。

【委員】 では第3圏域お願いします。

【委員】 地域で気軽に通え、住民主体となって活動できる場づくりを進めた。また介護予防として田原ウォークの実施及びACPの普及に努めた。

田原ウォークは地域住民が講師となり、田原地区の歴史を紐解き散策することで介護予防に資する体力向上をめざし顔なじみの関係を創っていくもの。

「皆さんが主役新聞」を作成し、地域の課題などをひろっていた。
戎公園では市民によるラジオ体操をしているが、北谷公園やさつきでもやってみたいとの意見がSCにありリーダーとなりうる人

への働きかけを考えている

ACP については「もしもの時の話」のカードを用いて話をし、どのように最期を迎えるかなどを考え、どのように生きるかなども考えるきっかけとなるので介護予防活動として位置付けた。

オレンジカフェなどに参加できない高齢者などがいるのでコロナ禍でもできる集まりを増やすことで閉じこもりを減らしていきたい。

【委員】 SC の活動報告は以上となります。続きまして、市民啓発・居場所づくり WG から報告をお願いします。

【委員】 定例会を 4 回したが、オンライン併用で機器がなかったなどで参加できないケースやオンラインでしゃべりにくいなどの課題がでた。それとは別にプロジェクトリーダー会議を 8 回オンラインで実施したが、今後この会議をどうしていくかを検討していく。活動としては、身近な集える場として「なわて元気プロジェクト」として、少人数で小地区ごと開催。通いの場を主催したい人、ボランティアしたい人、主体的に参加したい人に向けアプローチをした。岡山地区のいわき会の取組を聞き取り、受け身ではなく積極的に参加していける基盤を地域でつくれるよう地域の通いの場の一つである はっぴいカフェ参加者と対話をした。

高齢者のスマホ講座である「なわて幸齢者の夢ひろげ隊」では、協議体委員向けにスマホ講座を行い、単に操作説明だけでなく自分のライフスタイルにカスタマイズし高齢者同士で教え合う必要性を感じることができた。コロナ禍ではあるがマンツーマンや少人数での対応が適当であったと認識している。

高齢者がこのような講座を受ける機会が増えており WG での役割は終えたのではないかと考える。

【委員】 スマホ教室はよかった。知らないことなどがわかって。

【委員】 個別に対応して教えてもらったのでよかった。

【委員】 では移動外出支援 WG の報告をお願いします。

【委員】 いつまでも自分で外出できることをテーマに市内に椅子などがあればいいのではという発想のもと「ここイスプロジェクト」と題して活動。材木の寄付や作り手をボランティアにお願いし制作した。設置場所を検討し、WG 委員の所属している施設 3 ヶ所（るうてるホーム、四條畷荘、社会福祉協議会）に置いた。

アンケートなどで意見を聞くと椅子があることで休めるスペースがあり外出しやすいなどの意見があった。現在あるイスの場所と合わせて地図に落とし込み見える化に取り組むことができた。

【委員】 2 つの WG についていかがでしょうか。

2 つとも一定の役目が果たせたということで今年度で WG 活動は終了させていただきます。

議題2. 令和 4 年度くすのき広域連合四條畷市域生活支援サービス協議体活動計画（案）について説明いたします。

【委員】 令和 3 年度活動計画に基づき計画作成しました。本日は配布できていませんが改めて送付します。

協議体活動が空白で協議体委員と一緒に考えたいと思っておりますが、まずは SC が連携するための会議を重ねていきたい。SC 通信も年 2 回発行を継続していきます。2 つの WG がなくなりましたがそのあたりはどうでしょうか。

【事務局】 SC 通信を発行しているが地域での市民の反響はどうか。

【委員】 紙面が小さいので見にくい。またインパクトのある方がいい。

回覧の場合、次に回すということであまり内容を見ていただけないように感じる。もっと読みやすくする工夫をお願いしたい。

【委員】 いっぱい伝えたいことがあって記事を掲載しているが、もっと読んでもらえる工夫等を考えてみます。

【委員】 A3 サイズなど大きく読みやすいものを検討しては。

【委員】 先ほども委員から報告の際にあったように、少しは反響はあるが回覧となると早く次に回すということに気が行ってしまう。

【委員】 頑張ってみます。

【委員】 第 3 圏域では SC 通信を知らないという意見もよくある。

しかし自分が住んでいる地区では、自分が書いた記事を読んで声かけしてくれた人もいた。

【委員】 令和 4 年度第 1 回目までに SC 活動を決めていきたいと思えます。

【事務局】 本来の協議体の在り方についての議論ができていない。どのように令和 4 年度からの協議体にしていくのかご意見をまとめてほしい。コロナ禍なので対面とはいかないが課題解決などを議論してもらいたい。協議体に 2 つの WG があったが終了したので。また、今年度 2 回の協議体の報告の位置づけで終わってしまっている。コロナでサロンや通いの場ができないなどの課題があるのでどうすればいいかなど話し合えたらいいと思っております。

次年度以降柔軟に地域の実情にあった課題可決を図れる場とするために、くすのき広域連合ではこの協議体の要綱の見直しをしております。

【委員】 委員の皆さまどうでしょうか

【委員】 SC の報告や活動を協議体で総括していくものだがその課題などを議論していくべきとは思っている。

【事務局】 SC としてはどうですか。協議体が活動しやすくするため WG を立ち上げた経緯があるが。

- 【委員】 委員どうでしょうか
- 【委員】 昨年JAGESの社会資源調査の研修をしてニーズからスタートしているのでそのあたりを考えてもらうのではどうでしょうか。
- 【委員】 市域の課題整理を考えその中の一つの課題から検討していくことも必要かと思う。
- 【委員】 SC同士で話できる場が必要と思っている。
- 【委員】 自分も思う
- 【委員】 地域課題、ニーズに取り組んでいるのでこれを協議体で取り組む場としていきたい。
- 【委員】 同じく思う
- 【委員】 JAGESデータを使ってSCで検討してみたい。
- 【事務局】 協議体をどうしていくのかがまとまっていないので方向性が見いだせていない。次回第1回までにご提示させてもらうということで持ちかえるということでどうでしょうか。SCとしてそれでいいですか。
- 【委員】 はい。
- 資料3に基づき説明
- 【委員】 では続きまして議題3、「大阪ええまちプロジェクト担い手マッチング」について報告します。
- 2月25日26日と大阪ええまち大交流会があって四條畷の取組を報告しました。このプロジェクトは高齢者の積極的な社会参加を促し、地域づくりの構築など企画を通してSCの活動が成長していけるものと感じています。7月26日地域の困りごと説明会を団体向けに、10月29日3市合同、11月25日は四條畷市単独で「担い手募集説明会」をしました。登録団体は1件でしたが4件の担い手応募があり、小さな課題からできることを増やすことで地域課題の解決につながった。またICTの活用も必要だと実感した。
- 四條畷市でいつまでも住みたいと思える街になればいいと思います。今後も活動していきたいと思います。
- 【委員】 委員のみなさまご意見ありませんでしょうか。
- ないようなので、これで第2回の協議体を終了いたします。
- おつかれさまでした。